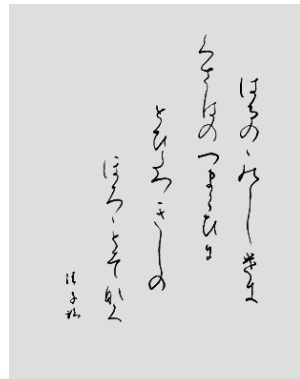
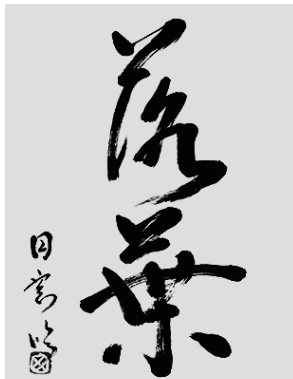


書塾の仲間たち

第 157 回

ふで これん まな
筆っ子連 真名かな (東京都豊島区)



●書塾からひとこと●

「筆っ子連 真名かな」。書道教室としては珍しいこの名は、落語家六代目三遊亭圓窓師匠が名付け親です。圓窓師匠はご自身の高座でのご活躍の他に、小学校での落語の授業を展開されるとともに、社会人向けの落語教室をいくつも開かれています。私(熊坂)も「大塚亭第九」の高座名で圓窓師匠にご指導を仰いでいる一人です。

この「筆っ子連 真名かな」は圓窓師匠と社会人教室の生徒、そしてその知人友人達を中心として始まった教室です。東京メトロ有楽町線千川駅近くの教室で月二回、月刊『書写書道』掲載の古典臨書手本を中心にお稽古をしております。時には脱線して落語の話で盛り上がることもあります。書くときは真剣そのもの。圓窓師匠の鋭い質問に指導する私が答えに窮することもあるくらいです。

さて私は、書道と落語には共通点があるように思います。第一に、「言葉」を道具とする表現であるということ。書き言葉と話し言葉の違いはありますが、さまざまな技法を駆使して「劇(ドラマ)」を作り上げていく点は同じです。第二に、「心」を理解する必要があるということ。落語を演じる際に、登場人物の気持ちを理解する必要があることと同様に、古典古筆の筆者の気持ちを理解しなくては良い書は書けません。第三に、数多く繰り返し稽古をして技法を身に付ける必要があること。そして、どちらも日本を代表する伝統文化であるということです。
お稽古の後の懇親会も楽しみに、和やかな雰囲気です活動しております。

東京都豊島区
筆っ子連 真名かな
熊坂尚史(大地)

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。



習字を習っていてよかった

東京都中野区立新山しんやま小学校四年 伊藤 愛いと うい まな

私は、去年の春休みから、習字を習いはじめました。習字を習いたかった理由は、二年生の時に、学校の書きぞめで、代表に選ばれなくて、とてもくやしかったからです。

私には、にが手な字があります。それは、「お」や「な」などの、「むすび」を筆で書く事です。学校の先生にしつ問すると、筆を使って教えてもらい、練習するうちにだんだん分かってきました。

そして、今年学校の書きぞめのか題「お正月」で、代表に選ばれました。

(習字を習っていてよかったあ……)

と、ひそかに思いました。いつもしっばいしていた、「むすび」や「大きく書く事」などが、上手に書けたので、とてもうれしかったです。

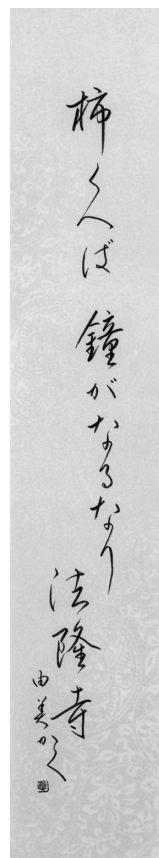
今年、はじめて日本武道館の席書大会にもさんかしました。大きな半紙に「のびる力」を書く事が、とても大変でした。でも、本番の二まい目は練習のどの時より、上手に書きました。

いつも練習が終わった後には、楽しみな事があります。友だちどうしでおつかれの気持ちを含めて持って来るおかしを食べる事です。

今日あった出き事などを話したりして、とても楽しい時間です。私のこれからの目ひょうは、ゆっくりお手本をよく見て、みんなにほめられるような、きれいな字を書けるようになる事です。

いつでも美しい字を書けるように、これからもお習字をつづけたいです。

私と書写書道



きつかけ そして今は…

東京都分寺市 鬼木 由美おにき ゆみ



書道の授業で悪戦苦闘している左利きの息子、彼が書道嫌いにならぬよう通い始めた書道教室。そこへの送迎から数ヶ月後、自分の名前ぐらいは臆することなく筆で書けるようになりたいと常々思っていた私は、子供と机を並べ、お稽古をしていました。

子供は成長するにつれ、クラブ活動などで時間が取れなくなりましたが、私はあの当時のまま、自転車で季節の移ろいや風を感じながら通ってあります。途中、思わぬ病いなどでやむなく中断という年月もありましたが、焦ることもなく、先生の「元気になったら又、お稽古が出来るわよ」との言葉に励まされ、現在に至っております。上達は悲しい程に牛歩ですが、「書写書道」誌に自信を持って提出できたことなど皆無と言ってもよい程ですが、「継続は力なり」を信じ、細々と続けております。

幼児から小・中・高・大・一般までが机を並べて真剣に半紙に向っている姿は、とてもほほえましい光景です。又、親子三世代が同じお稽古場で同じ先生から指導を受けられるということは素敵なことだと思えます。

私もこの環境に居られることに感謝し、いつか孫と机を並べて学べる日が来たら嬉しいと思っております。